

# 洞爺湖町のアイヌ文化

■問合せ 健康福祉課福祉・高齢者グループ（☎74-3001）

**洞** 爺湖町には、およそ15,000年前の旧石器時代から人が暮らしている歴史があります。その長い歴史の中で文化が育まれ、現在に引き継がれています。

アイヌ文化は、今からおよそ

800年前に成立したと考えられ、言葉や信仰など、独自の文化を育んできました。町内には「トーヤ」（アイヌ語で「湖の岸」の意味）「アブタ」（アイヌ語で「釣り針を作る」の意味）など、ア

イヌ語由来の地名が残されていることや文献、発掘調査などからもアイヌの人たちの暮らしを知ることができます。先住民族であるアイヌの方々の歴史と文化を学び、後世に伝えていくことは、この

地域に暮らしている私たちにとって、とても重要なことではないでしょうか。「洞爺湖町アイヌ民族共生拠点施設」は、こうしたアイヌ文化の伝統や魅力を伝えるための拠点となる施設です。

中島

## 5. 菅江真澄とアブタコタン

菅江真澄は江戸時代後期の旅行家で、旅の様子を書き残しました。アブタコタン（現在の虻田漁港周辺）へは、1791年旧暦6月7日に到着。夜、月明かりのアブタの海辺でアイヌメノコが吹くムックリの音に旅愁の思いに浸りつつ詠んだ歌があります。

「蝦夷見ても くもりも波の 月きよく  
吹く口びわの 声の涼しさ」

洞爺湖町歴史公園には昭和55年に町民の短歌会「木賊（とくさ）の会」によって建てられた歌碑があります。



5. 菅江真澄歌碑  
(洞爺湖町歴史公園)



6. 先住アイヌ民族慰霊碑前で行われているイチャルパ  
(アイヌ民族の伝統的な先祖供養) (洞爺湖町歴史公園)

## 「洞爺湖町アイヌ民族共生拠点施設」の建設工事が始まりました

町では、令和3年4月のオープンに向けて「アイヌ民族共生拠点施設」の整備を進めています。

この施設は、アイヌの人たちと地域の人たちがアイヌ民族について理解し、アイヌ文化や地域文化を継承するための活動の拠点となる施設です。

現在、施設の名前について、町内小中学校、高校の児童・生徒の皆さんによる投票を実施しています。施設の名前が決まりましたら広報でお知らせします。



施設イメージ図

場所：洞爺湖町本町1番地  
※あぶた体育館の向かい

# 洞爺湖町(虻田地区)アイヌ文化ゆかりの地



白井柳治郎銅像  
(虻田小学校)



1. 白井坂碑



3. 虻田実業補習学校 (左) と2. 虻田第二小学校 (右)

## 1～3. アイヌ教育に尽力した白井柳治郎

白井柳治郎は、アイヌの子どもたちの教育に力を注ぎ、アイヌ民族の社会的地位の向上に努めました。アイヌの子どもたちのため、虻田実業補習学校を設立した小谷部全一郎と協力して、虻田第二小学校を開校しました。アイヌの人々に寄り添い、教育者として生涯をささげた白井柳治郎は、旧虻田町名誉町民第1号となっています。



4. アイヌの人たちがつくった貝塚  
(高砂貝塚)

## 4. 発掘調査から分かるアイヌの暮らしー入江・高砂貝塚ー

入江・高砂貝塚には、1663年に噴火した有珠山の火山灰の下に、貝塚や畑の跡などアイヌの人たちが暮らした痕跡が残されています。貝塚からは、アサリやホタテなどの貝類のほかニシンなどの魚類やウニなどが見つかったことから、当時の食べていたものの一部を知ることができます。

## 洞爺湖町アイヌ民族共生拠点施設

- 1. 白井坂
- 2. 虻田第二小学校跡
- 3. 虻田実業補習学校跡
- 4. 高砂貝塚
- 4. 入江貝塚
- 赤川 (フレナイ)
- 板谷川
- トコタン川
- 入江川 (アブタベツ)
- 5. 菅江真澄歌碑
- 6. 先住アイヌ民族慰霊碑

金比羅山 ▲

西山 ▲

## 6. 有珠山噴火とアイヌー先住アイヌ民族慰霊碑

有珠山の文政噴火(1822年)により発生した火砕流により、多くのアイヌの方が犠牲になりました。昭和55年、歴史公園の設置に併せて、先住民族の霊を慰め、その労苦を偲ぶため、町民有志により建立しました。

## 洞爺湖町アイヌ文様ロゴマーク

アイヌの方々の衣服「ルウンペ」の基本となるアイヌ文様、モレウ(洞巻紋)、アイウシ(棘紋)、シク(目玉紋)などを活かしたデザインとし、噴火湾と洞爺湖を行き交うカモメをモチーフとしています。

カモメは、「昔災害が来る事を知らせた偉い鳥である」とのアイヌ伝承が残っています。

デザインの決定は、虻田小学校の児童に協力いただき、一番人気のあったデザインを採用しました。



洞爺湖町アイヌ文様ロゴマーク